

令和6年度 佐々並小学校教育計画

1 佐々並小学校教育目標

ふるさと佐々並を愛し、自ら考え学び、
心豊かにたくましく生きる児童の育成

2 めざす児童の姿

【知】 自ら考え学び、主体的に行動する児童
【徳】 心豊かで、仲良く助け合う児童
【体】 志をもち、最後までやりぬくたくましい児童

3 児童に身に付けさせたい資質能力

「かかわる力」
「考える力」
「表現する力」

4 チャレンジ目標

「進んであいさつ」
「しっかり読書」
「だまって掃除」

5 重点取組事項

- (1) 確かな学力の向上（「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導の充実，体験活動・探究活動の推進，複式指導の充実，ICT等の活用）【学力】
- (2) 心の教育の充実（人権教育の推進，道徳教育の充実，読書活動の推進，児童理解の充実【心】
- (3) 健全な心身の育成（基本的な生活習慣の確立，運動習慣づくりの推進）【体力】
- (4) 学校・家庭・地域・行政の連携・協働（CSの充実，小中一貫教育の充実，異校種間・学校間連携の充実）【つながり】

6 学校キャッチフレーズ

佐々並の魅力をさらに発見し、伝えよう！

7 学校運営方針

- (1) 小中一貫教育を柱に、知・徳・体の調和のとれた『生きる力』を育む教育の実現に努めるとともに、『個に応じた指導・個を生かす指導』の充実に向け、全教職員が一丸となってきめ細かな指導・支援を行う。
- (2) 児童生徒に身に付けさせたい資質能力を「かかわる力」，「考える力」，「表現する力」とし、学校の教育活動のあらゆる場面で「かかわる活動」，「考える活動」，「表現する活動」をバランスよく仕組み、子どもたちの将来に生きて働く力として育てていく。
- (3) 探究的な活動を推進する。特に高学年においては、「地域をより良くしていくために、自分たちにはどのようなことができるのか」などのテーマをもって、地域の人々とかかわりながら活動する機会を創出する。
- (4) 転ばせない（失敗させない）活動を目指すのではなく、安全に転ぶことができる（失敗してもよい）活動を仕組み、児童生徒が主体的に考え、問題解決を図ることができる力を育成する。
- (5) 『佐々並を学ぶ・佐々並に学ぶ』教育を根底に、佐々並の人や自然、文化と直接ふれあう体験的な活動を重視した地域学習を推進する。また、そこで得た内容をまとめ、文化祭や地域のイベント等において積極的に発信する。
- (6) ICT機器を効果的に活用した教育活動の重要性に鑑み、引き続き教職員の研修の充実に努め、児童生徒の学力向上及び学びの保障につなげていく。その際、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組となるよう意識する。
- (7) 明木図書館・やまびこの会との連携による読み聞かせや選書会等の取組の更なる充実を図るとともに、家庭と協力して読書の普及啓発を行い、児童生徒の読書習慣を定着させる。
- (8) 9年間を見通した系統的・計画的なキャリア教育を推進する。
- (9) 縦割り班（三校交流学習，清掃活動，花壇づくり等）で児童生徒の自主性を育成する。
- (10) 情報公開（ホームページ，学校だより等の各種たより，学校開放等）を通じて学校を開き、児童生徒，保護者，地域住民から信頼される学校づくりを推進する。

8 本年度の重点目標

(1) 確かな学力の向上

- ① 学習指導要領を理解し、保小中及び地域が連携した教育活動，教育環境を構築する。
 - ・地域の力を借りて総合的な学習の時間や学校行事，その他の教育活動の工夫改善を図る。
 - ・小学校教員，中学校教員双方向での乗り入れ授業を実践し，指導の充実に努める。

- ・授業規律スタンダードの徹底を図るとともに、授業の開始時刻と終了時刻を守る。
- ・良いところを認め合い本音が言い合える学級づくりや、一人一人が安心して居場所のある環境づくりを行う。
- ② 基礎・基本の定着と併せて思考力・判断力を働かせる場面を意図的につくるなど、応用力を育てる学習活動を推進する。
 - ・めあての提示と振り返りの工夫を行う。
 - ・「やまぐち学習支援プログラム（やまぐちっ子学習プリント）の活用を促進する。
 - ・朝学（佐小タイム）や自主学習の取組を利用し、個々に応じた基礎学力の定着を図る。
 - ・子どもたちによる「対話・議論・主体的な学び（高次の学習活動）」の場を設定し、学ぶ力（学び方）を身に付けさせる。
 - ・諸検査を利用して児童生徒の実態を把握し、学力向上プランの改善・活用をする。
- ③ 授業実践力を磨き、分かる授業の実現に努める。
 - ・互見授業を推進し、研究主題の視点をもって、授業改善に力を入れる。
 - ・ICT機器を効果的に活用した授業を推進し、児童生徒の学力向上に確実に結び付ける。

（2）心の教育の充実

- ① 児童生徒一人一人を見つめ、三つのステップ（自己存在感、自己肯定感、自己有用感）を高める場や機会を設定し、より良い人間関係を構築する実践的な態度を構築する。
- ② 道徳教育（人権学習を含む）の充実と指導の工夫改善に努める。
 - ・「考え、議論する道徳」の授業づくりを推進する。
- ③ 三校交流学习等の活動を通して、望ましい人間関係を育てる。
 - ・小中の児童生徒のつながりを生かした人間関係づくりに積極的に取り組む。
 - ・保育園との連携にも力を入れ協力体制を構築する。
 - ・児童生徒の心情を把握する（生活アンケート、校内教育支援委員会等での情報交換）とともにいじめを許さない心を醸成する。
 - ・小学生は中学生に対して、「あこがれ・敬う心」をもたせる。中学生は小学生に対して「先輩であることの自己有用感」をもたせる。
- ④ 読書習慣の形成を図り、豊かな心を育む。

（3）健全な心身の育成

- ① 家庭や地域と連携し、基本的な生活習慣の確立に努める。
 - ・早寝・早起き・朝ごはん及び食育指導の充実を図る。
 - ・メディアコントロール
- ② たくましい心身の育成に努める。
 - ・小学校：昼休みの外遊びや自分に合った運動を奨励する。学校独自の取組を推進し、運動習慣の確立に努める。
 - ・中学校：保健体育科の授業や部活動の充実を図る。
- ③ 児童生徒の自己実現を支援する教育相談の充実を努める。
 - ・週末の生活アンケートや教育相談を充実させ、児童生徒の悩み等の早期発見に努める。
 - ・スクールカウンセラーと連携して児童生徒の悩みの解決を図る。

（4）学校・家庭・地域・行政の連携・協働

- ① 学校（保小中）・家庭・地域・行政と連携した様々な教育活動を意図的・計画に行い、豊かな人間性や社会性を育む。
- ② 学校運営協議会、旭グリーンネットの活性化を図り、コミュニティ・スクールの更なる充実を図る。

9 ささらブ学園（ふるさと体験活動・学習）

学校運営方針1の（5）『佐々並を学ぶ・佐々並に学ぶ』の具体的な教育計画として行う。

高齢者の知恵や多様な地域の大人の方々との関わりを通して、「かかわる力」「考える力」「表現する力」の実践力を育てる。

令和6年度 ささらブ学園 実施予定内容

4・5・6月・・・あゆの放流教室、田植え教室、いもの苗植え教室（1～4年）、クリーン作戦

ささなみ・お気らくサロン交流活動①

7・8月・・・絵手紙教室、木工作教室、カヌー教室

9・10月・・・稲刈り教室、萩往還散策、いもほり教室（1～4年）、ささなみお気らくサロン交流活動②

11・12月・・・ささなみまちじゅうまつり・定点ガイド、迎春準備

2月・・・ささなみ豆腐づくり教室